

## 魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:阿保 孝志朗 所属:青森県立青森聾学校 記録日:2021年2月19日

キーワード:聴覚障害、コミュニケーション、コラボレーションツール、思考力、ノートの共有

### 【対象児の情報】

- ・学年高等部3年
- ・障害名聴覚障がい

### 【活動目的】

- ・当初のねらい

①誤解のないコミュニケーションができるようになる。

②思考をまとめることができるようになる。

③日本語能力を向上することができる。

- ・実施期間 令和2年4月～令和3年2月
- ・実施者 阿保孝志朗 浦田大地
- ・実施者と対象児の関係 副担任 担任

### 【活動内容と対象児の変化】

- ・対象児の事前の状況

#### <コミュニケーションの様子>

- ・補聴器、人工内耳を装着している。環境音の聞こえは良いが言葉ははっきりと聞こえているわけではない。
- ・口話の読み取りを行なっているが、わからないまま頷いていることがある。
- ・コミュニケーションモードは主に手話や指文字。発音が不明瞭で、あまり声を出したがない。普段接している本校の職員にすら一回で伝わらないことがある。
- ・SNS等の文字だけでのやり取りでは、誤解したり誤解されたりすることが少なくない。
- ・寄宿舎で生活しており、健聴者とコミュニケーションする機会が少ない。
- ・スマートフォンの音声読み上げ機能を発語の代わりに、音声入力を耳代わり(音声入力文字変換アプリを活用)にして健聴者とやりとりすることができる。

#### <思考について>

- ・抽象的に考えることは苦手で、物事を関連づけて考えることが難しい。マインドマップを活用して思考を拡散することには慣れてきた。
- ・話し合い活動では自分の意見を話すことが増えた。
- ・自分を客観的に振り返ることができるようになってきた。

#### <性格>

- ・恥ずかしがり屋で自分からよく話す方ではない。
- ・慎重なため自己決定まで時間がかかる。
- ・不安なことや見通しが持てないことがあると、気持ちをコントロールすることができないことがある。

#### <生活について>

- ・平日は寄宿舎で、週末は両親と一緒にいることが多いので、両親以外の健聴者とコミュニケーションする機会が少ない(両親は手話と口話で伝えてくれている)。

#### <学習について>

- ・準ずる教育課程で就労コースに在籍しているが、理解できる語彙が少なく高校の教科書の語句はわからないものが多い(特に国語、社会)。読書力診断テストの結果から小学校3年程度の文章であれば確実に理解することができる。作文を書くことを特に苦手としている。

#### <進路について>

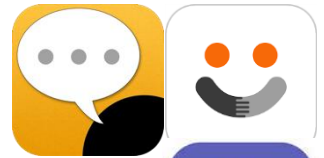
- ・昨年度は企業見学、産業現場等における実習をとおして県外の大規模な製造業に就職を希望している。
- ・将来一人暮らしをしたいと思っている。

## ・活動の具体的内容

### ①就労に向け相手や場面に応じた手立てを用いて健聴者と互いに誤解のないコミュニケーションができるようになる。

#### ○健聴者とコミュニケーションをしよう。

- ・いつでも携帯しているスマートフォンを活用し、手話が使えない健聴者と互いに負担なく通じ合える方法(デジタル筆談)を実践する。



#### ○グループウェアを使ったコミュニケーション

- ・卒後にろう者や本校の職員を含めた健聴者とつながることができるように学部、部活でグループウェアを活用し、テキストでのコミュニケーションやテレビ会議をすることに慣れる。



### ②思考をまとめ、気持ちを伝えることができるようになる。

#### ○シンキングツール

- ・これまで学んできたマインドマップによる思考の拡散したものを再び並び替える活動と通して考えをまとめる力を育成する。



#### ○手帳の活用による自分の生活の改善

- ・自由時間を有効に活用していくために学生用のバーティカルタイプの手帳を活用して自由時間の過ごし方を考えさせる。
- ・締め切りを意識して生徒会活動や長期的な宿題の準備ができるようになる



### ③日本語力の育成

#### ○共有文書での添削

- ・朝のニュース等発表原稿を国語科の教師とクラウドで文書を共有、文章の推敲を円滑にできるようにする。デジタルでファイリングすることでいつでも振り返ることができるようにする。
- ・共有文書での添削同様に日本語力向上の為のプリントを OneNote で実施する。



## ・対象児の事後の変化

### ①就労に向け相手や場面に応じた手立てを用いて健聴者と互いに誤解のないコミュニケーションができるようになる。

#### ○健聴者とコミュニケーションをしよう。

- ・手話が使えない健聴者とコミュニケーションする際に、いつでも携帯しているスマートフォンを活用し、互いに負担なく通じ合える方法(デジタル筆談)を実践した。新型コロナウイルス感染症のために、6月、夏休みに実施予定だったの産業現場等における実習が中止になったが、10月の入社試験や11月の近隣の普通高校の交流の際にUDトークを使い相手の音声テキスト化して理解しようと取り組んだ。相手が話す際に1人ずつ話してくれた場合には、変換した文字を見て理解することができた。ただ、健聴者の高校生同士の話が盛り上がり配慮を忘れた場合にうまく変換されず置いていかれることがあった。
- ・運転免許センターでの運転適性相談では、担当の方が丁寧に話してくれたこともあり、音声文字変換が正確に入力され手話通訳で説明をしなくても1人で理解することができた。

#### ○グループウェアを使ったコミュニケーション

- ・4月のコロナ休校の際にMicrosoft365Educationを導入した。Microsoft TeamsやZoomを活用し休校中に教師や高等部生徒とテレビ会議や学習会を実施した。また、休校中の活動を紹介するという地元のテレビ局画の企画に参加する際も他の生徒と共同でTeamsを活用して話し合いを行うことができた。
- ・学校再開後もTeamsで課題を提出や部活動の連絡、試合の反省や動画の共有をして活動に活かすことができた。
- ・生徒会からの連絡でTeamsを活用し広く意見を集めることができた。
- ・就労した際の上司への連絡を想定し、丁寧に伝え方について学習することができた。



新型コロナウイルス感染症予防啓発動画作りのディスカッション

生徒会からの告知

②思考をまとめ、気持ちを伝えることができるようになる。

○シンキングツール

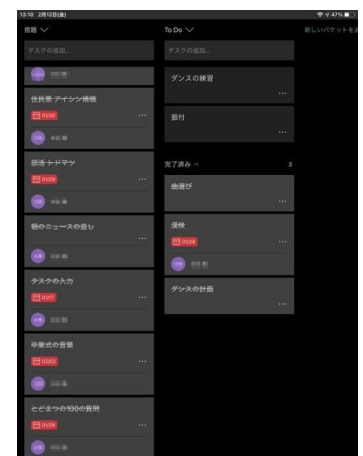
・これまで SimpleMind で使用し思考を拡散し関連付けてまとめることができるようになってきた。今年度はロイノートスクールのシンキングツールを活用し実施した。内容に合ったシンキングツールを活用することで整理できるようになった。国語科では内容の理解にも活用し、登場人物の行動と心情を関連付けることができるようになった。また、関連性を視覚的に操作できるようになり一人でもまとめることができ内容を理解しているということをアウトプットできるようになった。



○手帳の活用による自分の生活の改善

・昨年度に引き続き手帳にその日の授業、就寝までの時間の使い方を記録した。また、ウィークリーのページにはその日の宿題、マンスリーのページには行事や行事に関わるタスクを記入した。週の目標を立て反省等も記入し、過ごし方について振り返る様になった(宿題だから)。

しかし、「生徒会長の挨拶」等のある程度余裕のあるタスクの場合には、取り掛かりがギリギリになってからなってしまう、締め切り前に完成しないといったことが散見された。そこでコミュニケーションでも活用している Microsoft365 のプランナーを teams 上で活用してタスク管理を行った。3学期になって卒業を控え、生徒会長や部長として様々な挨拶等の作文を依頼されたが、全ての締め切りを守ることができた。



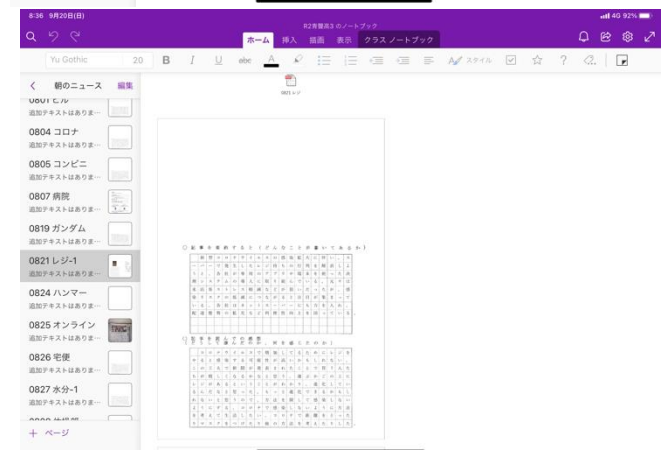
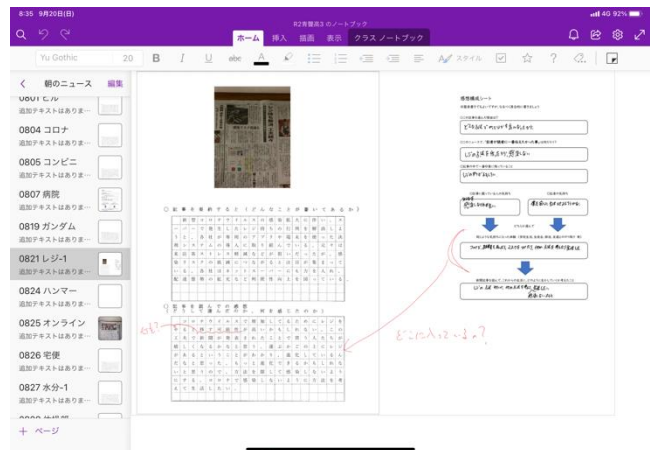
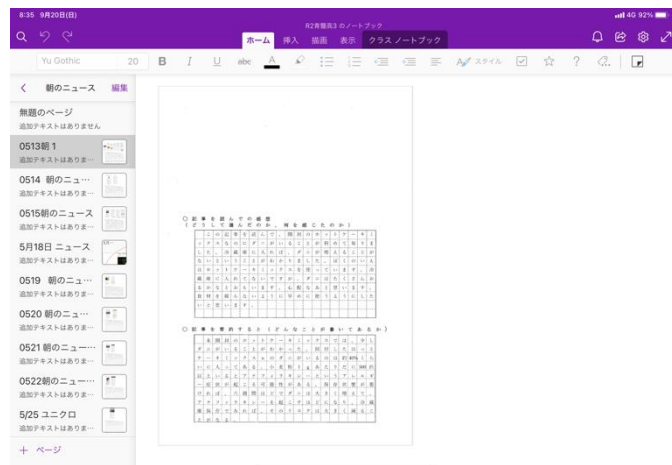
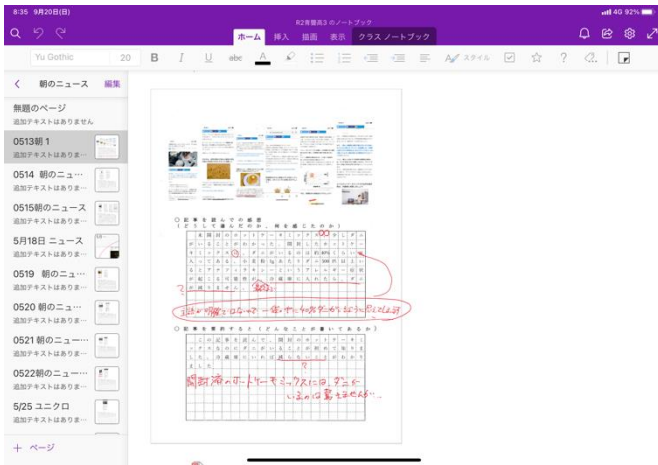
### ③日本語力の育成

#### ○共有文書での添削

- ・朝のニュース等発表原稿を国語科である担任と Teams と OneNote ClassNoteBook を活用し文書を共有、文章の推敲をほとんど毎日円滑にできるようになった。添削や修正、必要な場合はシンキングツールも活用して内容を整理することができるようになった。
- ・国語科の担任とのマンツーマンでの指導により、文字数が増え、表現も豊かになり文章力が向上した。

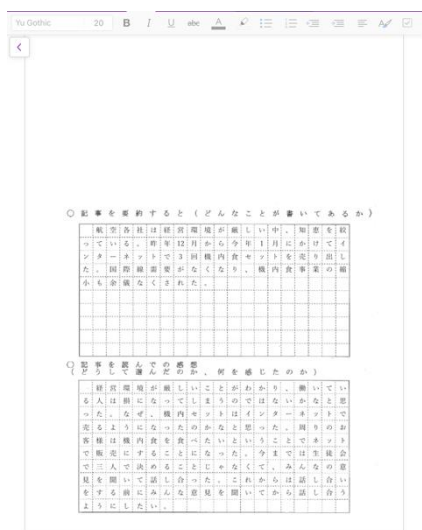
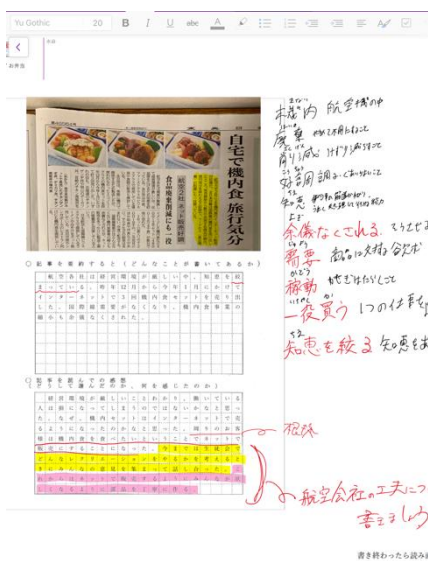
5月の朝のニュース

→ 添削後



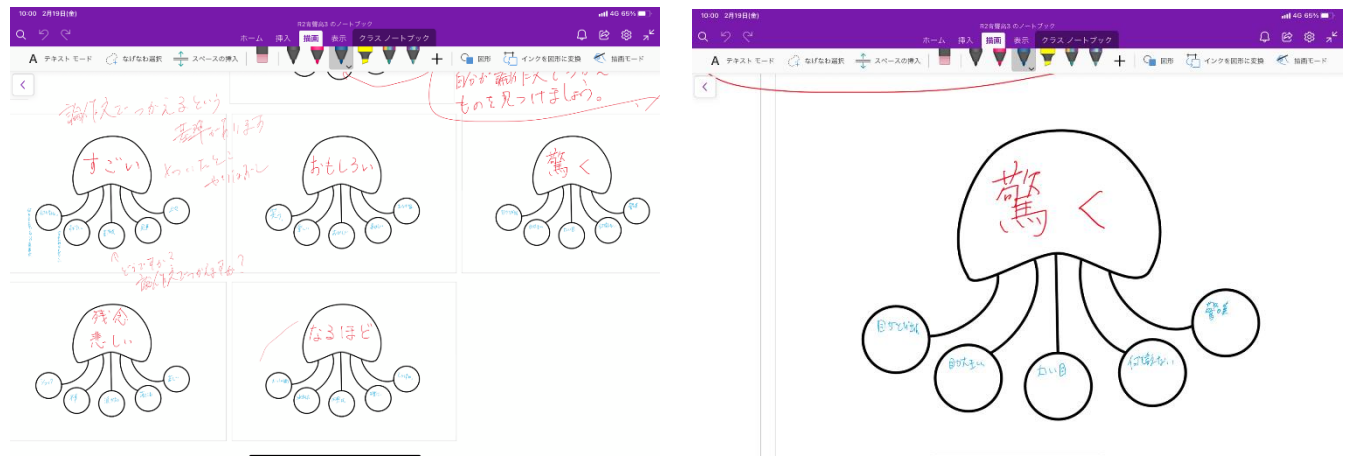
8月の朝のニュース

→ 添削後



2月の朝のニュース

→ 添削後



クラゲチャートによる語彙の拡充

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づきとエピソード

1. わかる手立てを得たことでコミュニケーションに自信が付き、自分から大きな声で話す様になったのではないかな。

ICT 機器を活用したコミュニケーションは昨年度から取り組んできけるが、聞くことや話すことの困難さを音声文字変換と音声読み上げでコミュニケーションできたという自信から、健聴者とのやりとりに自分からその場に合わせた方法を依頼したり、自分から大きな声で話したりするようになってきた。交流での感想もコミュニケーション面での達成感を記入するようになってきた。

現在、運転免許取得のために自動車学校に通っているが、その際にもロジャーシステムと UD トークを併用して学科の授業を受けている。

2. ICT を活用しノートを共有することで継続的に専門的な指導を受けたことで文章力が向上したのではないかな。

ほぼ毎日朝のニュースとして新聞の要約に取り組んできた。デジタルの共有ノートなので提出や返却のわずらわしさが省けるとともに、同じ文書を書き直しや構成のし直しが容易であった。本生徒は文章のキーボード入力を好み、担任は手書きで注釈をつけることを好んだが共有ノートはそのどちらニーズも満たしていたことも継続した要因の一つであると思われる。2021 年 2 月の個別面談では「iPad を用いた学習が自分には合っている。間違ってもすぐに消すことができる点や、ノートが 1 つにまとまっている点、ネットで調べたが画像や文字がすぐに入れることができる点良かった。」と話しており、当たり前のツールとして活用できている。

年度初めの入学式の挨拶原稿作成では参考までに渡した昨年度の会長の挨拶をほとんど引用して提出したり、自分の気持ちを表現できなかつたりして挨拶原稿を仕上げるために本生徒担任ともかなりの労力を要したが、2021 年 2 月の本生徒自身の卒業の答辞作成では、昨年の生徒会長の答辞を一切参考にせず作成した。また、国語科の担任から、挨拶原稿が長すぎるから、短くまとめることを提案されるくらい自分の気持ちを文章で表現できるようになった。

